

「読み・書き」に困難を抱える児童生徒の理解と学びの充実

—— 「読み・書き」サポートブック作成を通して ——

平 良 みどり^{*1} 湧 武 真 也^{*1} 平 良 錦一郎^{*2} 上 原 佳 太^{*3}
上 間 美佐子^{*4} 佐次田 美 咲^{*5} 佐 藤 しおり^{*6} 高 嶺 忍^{*7}

キーワード インクルーシブ教育 学習障害 読字障害 書字障害 発達障害
ディスレクシア 実態把握 サポートブック Web 版
読みのつまずき 書きのつまずき



I はじめに

2006 年の国連総会で「障害者権利条約」が採択され、インクルーシブ教育についても示された。これは、障害のある者とない者が共に学ぶことを通して「共生社会」の実現に貢献しようという考えに基づくものである。そのインクルーシブ教育を推進・確立していくためには、特別支援教育は必要不可欠なものである。国内における特別支援教育は、平成 19 年の学校教育法の一部改正により、障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う教育としてスタートした。障害のある子供たちの自立や社会参加に向けての取組を支援するという視点に立ち、現在全ての学校において実施されている。

特別支援教育の現状について「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」有識者会議参考資料（令和 4 年文部科学省）では、平成 24 年度と令和 4 年度を比較すると特別支援教育の対象となる児童生徒の割合は 2.9%から 6.3%へと増加傾向にあると示されている。中でも、通級による指導（以下、通級指導）を受けている児童生徒数は 16.3 万人で全体の 1.7%を占めており、通常学級に在籍し特別な支援を要する児童生徒が多いことが分かる。「通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」（令和 4 年文部科学省）における調査結果によると、「学習面または行動面で著しい困難を示す」児童生徒の割合は 8.8%、「学習面で著しい困難を示す」は 6.5%と推定されている。また、著しく学習に困難を示している子供たちに対する「授業時間以外の個別の配慮・支援を行っているか」の問いには、「行っていない」と回答した小学校・中学校は 67.2%であり、多くの児童生徒が授業時間以外で支援を受けることができているという実態が明らかとなった。加えて、この調査には「かなり困難」「やや困難」というレベルの子供たちが含まれておらず、通常学級の中で学習に困難を抱えつまずいている子供はさらに多いことが推測でき、教師の特別支援教育に関する専門性の向上は喫緊の課題であるといえる。

本総合教育センター特別支援教育班による教育相談や各種研修会では、読むことや書くことに困難を抱えている児童生徒の支援や指導について、教師からの相談や問い合わせが多く寄せられている。読むことや書くことに困難を示す「読み・書き障害」とは、学習障害の一つで知的発達に問題はないものの読むことや書くことに著しい困難を持つ状態をいう。支援の必要性が認知されにくい上、その特性から学びを積み重ねていくことに困難が生じる。結果的に学業不振や自己効力感の低下につながりやすい。読むこと書くことは全ての学びを支える土台である。教師が「読み・書き障害」及びその疑いのある子供たちを正しく理解し、早期から適切な支援を行うことができれば、学習に困難を示す子供たちの「わかった」「できた」「楽しい」を支えることができ、学びの充実につながるであろう。

以上のことから本研究では、小学校・中学校・高等学校（以下、小中高等学校）の教師の「読み・書き」に困難を抱える児童生徒の正しい理解と、支援や指導をサポートするために、2ヶ年計画で『読み・書き』サポートブック（以下、サポートブック）を作成する。初年度は、サポートブックの作成に向けて、沖縄市内の小中高等学校において「読み・書き」に困難を抱える児童生徒の実態及び指導する教師の困り感の把握を目的とした調査研究を行った。調査結果からは、子供理解や実態把握について、子供たちの困難に応じた支援及び指導方法、保護者との連携等に課題が見られた。この結果を踏まえて、サポートブックの項立てを行い、理論的なページとして「読み・書きに困難を抱える子供理解」「実態把握について」等、項目の一部を作成した。令和 5 年度は、読むこと・書くことについて、困難のタイプごとに「支援と指導」の内容をまとめたサポートブックの完成を

^{*1} 沖縄県立総合教育センター研究主事 ^{*2} 沖縄県立総合教育センター指導主事 ^{*3} 豊見城市立ゆたか小学校教諭

^{*4} 沖縄市立山内小学校教諭

^{*5} うるま市立城前小学校教諭

^{*6} 豊見城市立長嶺中学校教諭

^{*7} 沖縄県立那覇工業高等学校教諭

目指す。また、教師の活用のしやすさを考慮し、タブレットやスマートフォン等、様々な端末からでもアクセス可能とし、沖縄県立総合教育センターのWeb ページへ掲載を予定している。

Ⅱ 研究内容

1 研究計画

4月	テーマ、研究内容検討、研究計画 研究協力員依頼
5月	テーマ検討会
6月～9月	理論研究、資料収集 「読み・書き」困難のタイプごとに「支援と指導」の内容をまとめたページを作成
9月下旬～ 11月中旬	研究協力員による内容の検証 中間報告会
11月中旬～ 2月	検証を基にサポートブックの内容の見直しと修正 研究発表会 2月末サポートブック完成予定
3月	県立総合教育センターのWeb ページへ掲載準備 ※Web ページへの掲載は令和6年度4月を予定している

2 サポートブックの作成

前年度は、サポートブックのトップページをはじめとする一部のページを作成した。今年度は、読むこと・書くことについて、困難のタイプごとに支援と指導についての理論研究及び資料・情報収集を通して全てのページを作成する。

(1) 項立てについて

サポートブックの項立てについては、表1のとおりである。

表1 サポートブックの項立て

① 「はじめに」

サポートブックの趣旨と活用する方法について説明している。通常学級には、診断のある子だけでなく、それに近い状態を示す子供たちがかなりの割合で在籍しているとみられる。そこで、サポートブックでは、支援と指導の対象を、単に読字障害や書字障害と断定するのではなく、「読むことや書くことに困難を抱えている子供たち」として、広く捉えていることについて記載している。

② 「読みの困難の状態→支援と指導AからH」「書きの困難の状態→支援と指導AからH」

読みと書きの様々な困難のタイプから、児童生徒の状態に合わせて各タイプを選択できるようになっており、読み書きそれぞれにAからHの8つのタイプ別に「支援と指導」のページへと進むことができる。各ページでは、困難の状態に応じた支援と指導について情報を得ることができる。

③ 「実態把握について」

子供のニーズに応じた支援と指導を行うためには、実態把握が必要不可欠である。様々なアセスメント法や実態把握の仕方、簡易チェック、冰山モデルを活用した支援の考え方、実態把握に役立つツールを紹介している。

④ 「読み・書きに困難を抱える子供理解」

読み・書きの困難の要因にはどのようなことが考えられるのか、また、読み書きに困難がある状態とはどのような状態か等、特別支援教育関連について知識が十分でない教師でも分かりやすいようにまとめ、「読み・書き」に困難を抱える子供たちについて総合的に学ぶことができる。

⑤ 「教材の紹介（Web 版）」

パソコンやタブレット等を活用した指導に役立つアプリを紹介している。

⑥ 「実践例」

紹介した児童生徒の支援や指導を参考に研究協力員が実際に実践した例を紹介している。

- | |
|--|
| 1. はじめに
2. 読みの困難の状態
・支援と指導(A～Hの8タイプ)
書きの困難の状態
・支援と指導(A～Hの8タイプ)
3. 実態把握について
4. 読み・書きに困難を抱える
子供理解
5. 教材の紹介(Web版)
6. 実践例 |
|--|

(2) タイプ別「読み・書き」の困難「支援と指導」ページの作成

今年度は、読むこと・書くことについて、困難のタイプごとに「支援と指導」の内容をまとめたページ作成を行った(表2、表3)。

表2 タイプごとの読みの困難への支援と指導

読 み の 困 難	Aタイプ	適切な速さで読むことができない
	Bタイプ	言葉に詰まったりする
	Cタイプ	初めて出てきた語や普段あまり使わない語などを読み間違える
	Dタイプ	文中の語句や行をとばしたり、または繰り返し読んだりする
	Eタイプ	音読がたどたどしい
	Fタイプ	勝手読みがある(「行きました」を「いました」と読む等)
	Gタイプ	読むことを嫌がる
	Hタイプ	文章を読んで理解することが難しい

表3 タイプごとの書きの困難への支援と指導

書 き の 困 難	Aタイプ	読みにくい字を書く
	Bタイプ	ひらがなやカタカナが書けない
	Cタイプ	漢字を書くことが苦手
	Dタイプ	句読点の抜けや正しく打つことができない
	Eタイプ	板書することが難しい
	Fタイプ	時間内に書くことができない
	Gタイプ	文章を書くことが苦手
	Hタイプ	書くことを嫌がる

3 試作版について

サポートブック試作版より、読み・書きの困難への支援と指導から一部を紹介する(図1、図2)。

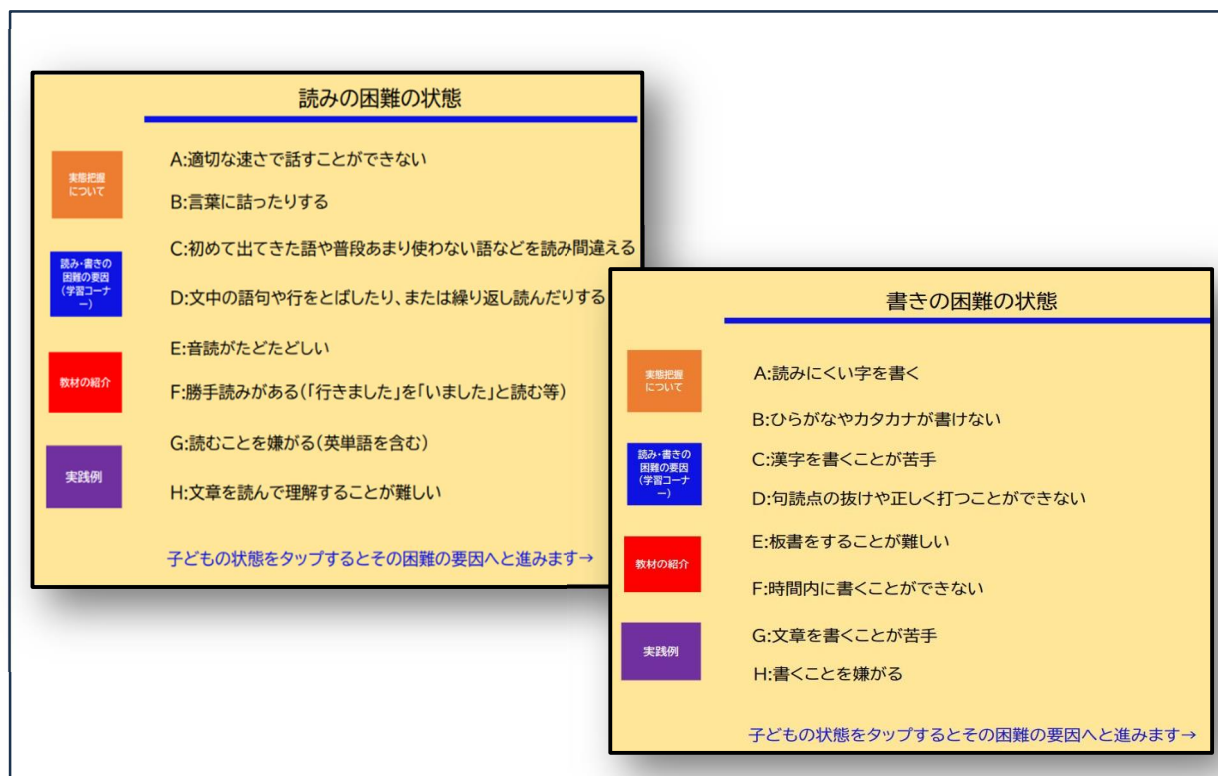


図1 タイプ別読み書きの困難のページ

Aタイプ 適切な速さで読むことができない (早い／遅い 等)

支援と指導

音読や会話で早口になってしまう。
読むのが遅い。

●指導事例:「メトロノームでテンポ読みの練習」

○メトロノームを使用し、子どもが乗ることのできる速さのテンポを探します。
※メトロノームは、アプリをダウンロードしてタブレット等で提示してもよいでしょう。
また、メトロノームは、音読の妨害とならないように音量の調整が必要です。

○次に、子どもが乗ることのできる速さのテンポよりもゆっくりのテンポを流し、手拍子を合わせます。

○2音の無意味音節(意味のないことば)をパソコン画面でランダムに提示します。その際、音読に集中できるようにタイミングを図りながら提示するようにします。

○「10回正確に読める」「テンポを合わせられる」の2つの条件をクリアしたら3音へ、というようにステップアップして、4音までの音読がスムーズにできたらテンポを速めていきます。

○定着の状況に合わせてさらにテンポを速めて、最終的にテンポ 120(1 拍 1 文字)で読めるように練習します。

○テンポを意識しながら短文音読を行います。15文字程度からはじめ、30文字程度を目標にして、スムーズに読めるように練習していきます。

●この指導のポイントとして、以下の3つがあります。

- ①スムーズな音読が可能なテンポや、特殊音節の読みの定着状況など、読みの実態把握を丁寧に行う必要があります。
- ②毎日、短時間の練習時間を設定し継続して取り組みます。
- ③音読の定着状況を見て、子どもにパソコンの画面を操作させることで、興味を持って取り組むことができます。



読みの 「A タイプ」のページより

●指導事例:「早口ことばで読む練習」

○子どもに「早口ことばカード」を見せて、一度自由なスピードで読んでもらいます。ここでは、読みのスピードに関する指導は行いません。

○次に、同じ文章を教師が読み、子どもに同じ速さで復唱してもらいます。これをくり返し、教師は標準的な速さをベースに、早く読んだり、ゆっくり読んだり読むスピードを段階的に切り替えます。

○さまざまな読みの速さで練習し、子どもにあった速さや読み方を見つけます。見つけた読み方で、スムーズに読めるようになるまでくり返し練習を行います。

〈早口ことばカード〉

なまむぎ なまごめ なまたまご

となりの きゃくは よく

かきく きゃくだ

かえるびよびよこ みびよびよこ
あわせてびよびよこ むびよびよこ

あかばじゃま きばじゃま ちゃばじゃま

●子どもが失敗に対するプレッシャーを強く感じることも予想されるので、多少うまくいかなくても厳しく指摘しないようにします。また、一概に「早口はダメ」と指導するのではなく、逆に早口になってもよい教材を活用するなど、話すことへのプレッシャーを軽減するよう心がけるようにします。

●ゆっくり読むことへの練習では、メトロノームを使用して1拍1文字程度の速さで練習をするといでしょう。メトロノームのスピードについては子どもに決めさせてもかまいません。

Aタイプ 読みにくい字を書く

(字の大きさや形が整っていない、真つすぐに書けない、なぞれない 等)

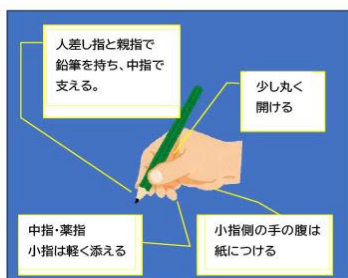
支援と指導

字を書くためには、見る力、手の動き、記憶眼と手の協応、ワーキングメモリー(短期記憶)、鉛筆の操作の苦手が関係します。

●不器用さを軽減するために手指の操作力を高めます。

○HB や2B のように柔らかく濃い鉛筆、3角鉛筆などの書きやすく持ちやすい鉛筆を使い書きます。

○鉛筆を正しく持ちます。
正しく持つことで、字のバランスが整いやすくなります。
正しく持つと、字を書く時に鉛筆の先が見えます。また、バランスの悪い字を書く子どもの持ち方を見ると、ほとんどが小指側の手の腹が紙についていません。手の腹を紙につけるようになると、運筆の支点となり、バランスがとりやすく手の動きが安定します。



○生活動作や遊びの中で操作に慣れるようにします。
手指の操作に苦手ががあると、文字をバランスよく書くことに困難を示します。そこで、生活動作やテーブルゲーム等の遊びを通して手指をよく動かせるようにします。
細かい手や指の動きに慣れるために、トランプ等のカードゲーム、オセロ、将棋、あやとり、レゴブロック、ドミノ、積み木粘土等の遊びを取り入れます。



生活動作や遊びの中で

つかむ、つまむ、にぎる、持つ、引っ張る、転がす、平らに伸ばす、よじる…等の動きがある活動に楽しく取り組ませます。

書きの 「A タイプ」のページより

●枠や罫線

○枠が狭いマス目

○罫線を使って文字を書く場合、縦書きで文字がかかり踊っている子は、横書きにすると罫線に下をそろえられるので整えやすいです。

●筆記用具の工夫をします。

使いやすい文具で書きやすさや消しやすさを保証し、何度でもトライしやすくします。

○持ちやすい鉛筆を使います。

鉛筆は親指、人差し指、中指の3本の指を使って持ちます。3角鉛筆が最も指を固定させやすいです(6角鉛筆も可)。

○濃くて柔らかい鉛筆を使います。

2B や B 等は、芯が濃くて柔らかく筆圧が弱くても書きやすいです。柔らかいので消しゴムでも消しやすいです。HB は、固く薄いため力が必要です。力を入れて書くため消しゴムでも消しにくいです。

○鉛筆グリップ(3点指示用鉛筆サポーター)を使い、正しい持ち方をトレーニングします。

○よく消える消しゴムを使う。

軽い力で消しやすい「プラスチック消しゴム」等で「消す」というストレスを少なくすることも大切です。

○確認すること⇒筆記用具の状態を確認しましょう。鉛筆の芯が折れている、消しゴムを持っていない等が原因かもしれません。

●太い線や文字をはみ出さないようになぞらせします。

○線や文字をなぞらせる時は、初めは太い線(太めのマジック幅)をなぞらせ、線からはみ出ないように丁寧になぞらせします。はみ出しがなくなったら、徐々に線の太さを細くしていきます。

直線(縦線・横線)⇒短い直線⇒長い直線⇒角のある直線⇒幾何学模様のなぞり曲線(縦線・横線)⇒ゆるやかな曲線⇒くるくる曲線(大)⇒くるくる曲線(小)

●迷路やいろいろな模様をなぞったり、お気に入りの画像やイラスト(めり絵画像)を利用すると準備が簡単)をトレーシングしたり、楽しくなぞらせる工夫をします。

文字を拡大してなぞらせる

迷路やイラストなどでおもしろく
なぞらせる



図2 タイプ別の支援と指導より、「読み」Aタイプ、「書き」Aタイプから抜粋

4 サポートブック試作版の検証と考察

(1) 検証について

Googl サイト上のサポートブック試作版を、研究協力員5名（小学校通常学級担任3名、中学校通級指導教室担当1名、高等学校通級指導教室担当1名）に限定公開し、実際に活用してもらい実用化に向けて内容を検証する。検証を基に内容の見直しと修正を行う。

① 検証期間

令和5年9月22日～令和5年11月17日

② 検証目的

サポートブックの内容充実を目指し、試作版が「読み・書き」に困難を抱える子供たちの指導をしている教師を支援できる内容となっているか、また、Web版として操作がスムーズに行えるか等について実際に活用しながら効果検証を行う。

③ 検証内容

検証は、「操作について」「サポートブックの内容について」「活用について」「通級指導教室担当の先生へ」「通常学級の先生へ」を中心に行う。また、実際にサポートブックを参考にし、児童生徒の実態に合わせた内容についての詳細は以下のとおりである（表4）。

表4 検証内容

1 操作について（視聴する際の手順等がわかりやすくなっているか）

- ア 主に使用する場所はどこですか。（教室、自宅等）
- イ 「読み・書き」サポートブックWeb版の全てのページを読みましたか。
- ウ どのデバイスが活用しやすかったですか。（スマートフォン・タブレット・パソコン）
- エ 各ページの見やすさはどうですか。（スクロールの回数、インデックスの追加の検討等）
- オ 知りたい情報をスムーズに探すことができましたか。

2 サポートブックの内容について

- ア 必要な情報が得られる内容になっていますか。
- イ 教師の悩みに応える内容になっていますか。
- ウ トップページから「はじめに」の内容は理解できましたか。
- エ 「児童生徒の実態把握」について、その内容は理解できましたか。
- オ 「『読み・書き』に困難を抱える子ども理解」について、その内容は理解できましたか。
- カ 「教材の紹介」についてその内容は理解できましたか。
- キ 読みの困難に対する「支援と指導」について理解できる内容になっていますか。（A～Hの8タイプ別）
- ク 書きの困難に対する「支援と指導」について理解できる内容になっていますか。（A～Hの8タイプ別）

3 活用について

- ア サポートブックを活用したいと思いますか。
- イ 活用した内容について、読みの実践から1つ、書きの実践から1つ、「実践例」としてご提供ください。
- ウ 実際の指導において、活用した内容があれば教えてください。（○で囲んでください。複数回答可。）
読みのタイプ（ A B C D E F G H ）書きのタイプ（ A B C D E F G H ）
- エ サポートブックはどのような場面で活用できると思いますか。（○で囲んでください。・複数回答可。）

通常学級での授業実践 個別の支援計画や指導計画の作成時 学年会 ケース会議	特別支援学級での指導 授業デザイン時 保護者面談	個別指導 関係機関との連携	実態把握 授業の振り返り その他（ ）	単元指導計画 校内委員会
---	--------------------------------	------------------	---------------------------	-----------------

4 【通常学級の先生へ】

- ア 使ってみて、特に良かった点があれば教えてください。
- イ 校内の先生方へ紹介したいと思いますか。

5 【通級指導教室担当の先生へ】

- ア 使ってみて、良かった点があれば教えてください。
- イ サポートブックで得た支援や指導についての情報は、通常学級の先生や校内における連携等で活用できそうですか。具体的にどのような部分が連携で利用できそうか教えてください。

6 その他【ご意見をお聞かせください】学級の先生方へ紹介したいと思いますか。

- ア サポートブックの各学校への周知方法についてご意見をお聞かせください。
- イ 「読み・書き」サポートブックWeb版の活用及び促進に向けた課題、意見・要望があればご記入ください。

(2) 検証結果

研究協力員による検証結果については、各項目以下のとおりである（表5～表9）。

① 「操作について」

表5 検証「操作について」

【良かった点】

ウ「どのデバイスが活用しやすかったですか」、エ「各ページの見やすさ」では、基本的にどの端末でも見やすいが、特にパソコンとタブレットが挙げられている。閲覧のしやすさではパソコン、持ち運びのしやすさではタブレットやスマホは常に携帯しているので、気になる時にすぐに調べられる等の利便性の良さが報告されている。オ「知りたい情報はスムーズに探すことができましたか」では、「スムーズにできた」「具体的な特性で書かれているためイメージしやすく探しやすい」「知りたい情報を調べることができ、とても便利に思えた」との回答があった。

【課題】

- ・スマホは、すぐに検索ができるのだが、文字が小さく拡大しないと読みづらいページがあった。また、スクロール回数が多くなり、前に戻りたい時に何処か分からなくなる。
- ・インデックスの見やすさを工夫したほうが良い。
- ・ページの最後に「戻る」ボタンがあった方が良い。

② 「サポートブックの内容について」

表6 検証「サポートブックの内容について」

【良かった点】

ア「必要な情報が得られる内容になっていますか」

「タイプ別になっているので分かりやすい」「必要なページを読めば情報が得られるようになっている」「実践例だけでなく、理論的なものも載っていたので実態把握に役立った」「読字・書字の困難や特性について、全く知らない先生にも内容的に必要な情報が得られる」

イ「教師の悩みに応える内容になっていますか」

「悩みを解決するヒントになる」「対象となる生徒の実態に合った支援・指導になっている」「支援教材や指導例も多く掲載されているため、すぐに実践したいと思った」「特別支援学級を担当した事がない学級担任でも分かるように、困難の要因が説明されていて勉強になった」「気になる児童について再度見取り直しができ、支援方法や指導事例も沢山掲載されており、実践意欲が増した」

ウ「トップページから『はじめに』について」、エ「児童生徒の実態把握」、オ「『読み・書き』に困難を抱える子供理解」カ「教材の紹介」について、その内容は理解できましたか。

ウからカの設問について、全員が「理解できた」と答えている。

キ「読みの困難」、ク「書きの困難」に対するタイプ別支援と指導について、理解できる内容になっていますか。

キとクの各タイプについて、全員が「理解できた」と答えている。

【課題】

- ・全体的に文章の中で、書式の統一、誤字・脱字、言葉の統一等が必要。読みにくい文章がある。
- ・説明が分かりやすいように、イラストや画像がもっとあった方が良い。
- ・分からない言葉があるので、用語解説があった方が良い。
- ・chromebookで活用できるアプリの紹介があると助かる（市町村によっては、iPadが使えない）。

③ 「活用について」

表7 検証「活用について」

【良かった点】

ア「サポートブックを活用したいと思いますか」

- ・全員が「思う」と答えている。
- ・具体的な指導事例が掲載されている。授業で取り入れることができ、今後も活用したい。
- ・特別支援学級を担当したことがなくても、「読み・書き」の苦手な子にどのようなアプローチが必要なのか、丁寧に教えてくれるので活用しやすい。タイプ別の支援と指導がとても有効であった。
- ・教職経験の未熟さから、上手く児童理解ができずに困っていた。要因や支援、指導が細かく記載されているため、「実践してみたい！実践してみよう！」という前向きな意欲が湧き、大変、勉強になった。「これまで行ってきた支援や指導も記載されていたので、「間違っていなかった！」という自信にもなった。「読み・書きサポートブック」は、児童生徒の支援や指導の根拠となる資料だと思う。

イ 「実際の指導において活用した内容があれば教えてください」（複数回答可）

- ・「読み・書き」とともに、一人あたり2回以上実際の指導において活用していた。

ウ 実際の実践例の提供

- ・研究協力員5名より実践例を提供してもらった。

エ サポートブックはどのような場面で活用できると思いますか。

小学校：通常学級での授業実践、特別支援学級での指導、個別指導、実態把握、個別の支援計画や指導計画の作成
単元指導計画作成、授業デザイン時、授業の振り返り、校内委員会、ケース会議、保護者面談、関係機関との連携

中学校/高等学校：特別支援学級での指導、個別指導、授業デザイン時、通常学級での授業実践、個別指導、
実態把握、個別の支援計画や指導計画の作成時

④ 「通常学級の先生へ」

表8 検証「通常学級担任としての活用」

【良かった点】

ア「使ってみて良かった点があれば教えてください」

- ・「読み・書き」の困難の状態と指導がタイプ別になっていて良かった。
- ・理論的なことが分かりやすく書かれていて参考になった。
- ・児童の実態にあった指導を選べるので、活用してみたいと思える内容であった。
- ・教材の参考例があったのでオリジナル教材が作りやすかった。
- ・紹介されている教材の一つ「多層指導モデル MIM」は、「読み・書き」のすべてにおいて、効果があると思った。学級全体で支援や指導を行えるところが助かった。

イ「校内の先生方へ紹介したいと思いますか」

- ・思う。新任特別支援学級担任や、支援学級在籍の児童が交流及び共同学習で授業をうけている通常学級の担任の先生に見てほしい。
- ・どの学級にも読み書きが苦手な児童がいると思うが、すぐに活用できる情報が沢山あるので是非紹介したい。
- ・是非紹介したいと思う。学年会では、困り感を抱いている児童の共有やどのような支援があるか、度々、議題に上がることがあった。その度に、先輩教諭から支援や指導の方法や、資料を提供してもらっていた。「サポートブック」の活用が本県で広まれば、どの地区においても支援や指導がスムーズに行えると思う。

⑤ 「通級指導教室担当の先生へ」

表9 検証「通級指導教室担当としての活用」

【良かった点】

ア「使ってみて良かった点があれば教えてください」

- ・具体的な特性が整理されて書かれているので、通常学級の先生方にも説明がしやすくて良かった。
- ・困難を抱える生徒がどのタイプでどの指導が有効なのか、確認することができた。
- ・今後の指導の参考になった。

イ「サポートブックで得た支援や指導についての情報は、通常学級の先生や校内における連携等で活用できそうですか」

- ・はい。サイトを紹介する。
- ・全体でのビジョントレーニングを授業前にやることや、個人的に使用する教具等の情報を提供する等で、通常学級でも取り入れやすくする。
- ・生徒の実態把握。指導の共通理解。指導の根拠として。

【課題】

- ・内容での連携となると、現実的に先生たちの準備時間や、通級での指導に指定されている時間での活用、個別の活用等いろいろ考えられるが、通常の教科の中で取り入れるには少し難しいものが多いかと思った。逆に、内容的には特別支援学級の授業内や通級指導教室における自立活動では十分に使えると思う。

⑥ 「実践報告について」

サポートブックを参考に、研究協力員が実際に指導した内容を提供してもらった。提供された実践例は、サポートブックの閲覧者が教材を作成する際に、指導や活用場面のイメージを持ちやすいようにサポートブックへ掲載する。

(3) 検証における考察

「1 操作について」では、パソコン、タブレット、スマホを使用して、自宅や教室、職員室で使うことができおり、閲覧もスムーズにできていた。このことから、教師が困った時、知りたいことがある時に、いつでも身近なデバイスで調べることが可能であることを確認することができた。

改善点としては、検索しやすいようにメインページのデザイン変更、インデックスと各ページの名称の統一、閲覧しているページの最後に任意のページヘジャンプ（移動）できるように「戻る」等のボタンを設置し、より操作性を高めることである。

「2 サポートブックの内容について」では、「トップページ」「児童生徒の実態把握」「読み・書きに困難を抱える子供理解」「教材の紹介」「読み・書きの困難の各タイプ別支援と指導」、全ての項目において「理解できる」内容となっているとの回答を得た。その理由として「タイプ別になっているから分かりやすい」「実践例だけでなく理論的なことも載っていたので実態把握に役立った」「悩みを解決するヒントになる」「特別支援学級を担当したことがない学級担任でも分かりやすい」「支援方法や指導事例も沢山掲載されており実践意欲が増した」等が挙げられた。このことから、サポートブックは教師にとって必要な情報が得られ、悩みに応える内容であることが分かった。

改善点としては、書式や文言の統一、用語解説やイラスト・画像の挿入等、主に読みやすさに着眼して修正を行う。更に分かりやすい内容にするため、一部のページでは文章の見直しや加筆を行う。

「3 活用について」では、全員が「サポートブックを活用したいと思う。」と回答している。理由としては、「特別支援学級を担当したことがなくても、読み書きの苦手な子供にどのようにアプローチが必要なのか、丁寧に教えてくれるので活用しやすい」「タイプ別の支援と指導がとても有効」「これまで行ってきた支援や指導が『間違っていなかった』という自信にもなった」等という声があり、特別支援学級を担当したことがない教師でも活用しやすく、これまでの支援や指導に対する自信と支援や指導の根拠を確認できる等、教師にとって役に立つツールとしての活用が期待できる。

サポートブックの活用場面としては、通常学級での授業実践、特別支援学級での指導、個別指導、実態把握、個別の支援計画や指導計画の作成、単元指導計画作成、授業デザイン時、授業の振り返り、校内委員会、ケース会議、保護者面談、関係機関との連携等での活用が期待できる。

「4 通常学級担任」としては、使ってみて良かった点として、『『読み・書き』の困難の状態と指導のタイプ別指導が良かった』『『読み・書き』の困難について理論的な部分が分かりやすく書かれていて参考になった』『児童の実態に合った指導を選べる』『教材の参考例があったのでオリジナル教材が作りやすい』等の回答があった。サポートブックは、閲覧時に児童生徒の困難の状態から支援や指導を導きやすいように、困難のタイプ別掲載や教材の紹介、困難の要因や実態把握についてのページを作成している。これまで知らなかった「読み・書き」の困難の要因や、支援と指導、実態把握について知ることは、より児童生徒の理解につながり「使って良かった」と感じたと考えられる。また、「どの学級にも読み書きの苦手な児童がおり、すぐに活用できる情報が沢山ある」「学年会での困り感を抱いている児童の共有や支援についての確認等でもサポートブックが活用できる」「新任特別支援学級担任や、交流及び共同学習で授業を行っている通常学級担任に見てほしい」等、校内の先生方にも是非紹介したいとの回答があった。サポートブックは、読み書きに困難を抱える児童生徒の支援や指導に悩んでいる通常学級担任にとって役立つものになることが期待できる。

「5 通級指導教室担当」としては、困難を抱える生徒がどのタイプに該当するのかを確認して、有効な指導を選択できることや、サポートブックを活用して通常学級の先生方へ生徒の特性等についての説明を行っていた。通級指導教室担当として通常学級の先生や校内における連携での活用では、サイトを紹介し、実態把握、指導の共通理解、指導の根拠確認、個別の教育支援計画や個別の指導計画作成時等が考えられる。

Ⅲ まとめ

本研究では、小中高等学校教師に対する「読み・書き」に困難を抱える子供たちの正しい理解と、支援や指導を手助けするためのサポートブックを2カ年計画で作成している。

表 10 検証後の修正点

- ・書式の統一
- ・文言の統一
- ・メインページのデザイン修正
- ・各ページへのリンクの挿入
- ・タイトル等の表示の統一
- ・用語解説の挿入
- ・イラストや画像等の追加
- ・文章の見直し
- ・既存のページへの加筆
- ・実践報告のページを新設する

前年度の調査研究では、子供理解や実態把握について、子供たちの困難に応じた支援及び指導方法、保護者との連携等に課題があることが分かった。これらの課題は、読むことや書くことに困難を抱える子供たちを支援・指導している教師が抱える困難である。教師はサポートブックを活用し、「読み・書き」の困難はなぜ起きているのかといった要因を知ることで、目の前にいる子供を理解することができる。様々な実態把握の方法を知ることが、子供のニーズに合った支援と指導を展開することにつながる。保護者との関係についても、教師が子供を理解し実態に合った指導を展開することにより、信頼を得ることができ、より良い関係を築くことができると考える。

今年度前半は、「支援と指導」について、誰でも理解しやすいことを念頭に置きながら、「読み・書き」とともにAタイプからHタイプまでの全ページの作成に取り組み、サポートブック試作版を作成した。その後、研究協力員に実際に活用してもらい、「操作について」「サポートブックの内容について」「活用について」「通級指導教室担当者・通常学級担任としての活用」について検証を依頼した。その後、検証報告を基に改善点を確認し、より理解しやすく活用しやすいサポートブックの完成を目指し、修正と加筆を行った(表 10)。検証報告には、「様々なデバイスで活用できる」「児童生徒の困難の状態にあった支援や指導が紹介され分かりやすく実践しやすい」「『読み・書き』の困難についての理解が深まった」「実態把握がしやすい」等といった報告があり、サポートブックは、「読み・書き」に困難を抱える児童生徒の指導に悩んでいる教師の一助となることが期待できる。

また、『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申) (令和3年中央教育審議会)では「個別最適な学び」を進めるにあたり「これまで以上に子供の成長のつまずき、悩みなどの理解に務め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援すること」や、「インクルーシブ教育システムの理念を構築する旨として行われ、全ての子供たちが適切な支援を受けられる環境整備」を求めている。子供の成長のつまずきや悩みを理解すること、実態に応じた指導方法・教材等の柔軟な提供や設定を計画する際、サポートブックの有効活用を期待したい。さらに、サポートブックは小中高等学校及び特別支援学校で活用できるコンテンツである。全国的にも大きな課題となっている教師の特別支援教育に関する専門性の向上にも寄与できると考える。

〈参考文献〉

- 北出勝也 2023 『勉強とスポーツに自信がつくビジョントレーニング』創元社
- 鴨下賢一 2022 『マンガでわかる読み書き指導』図書印刷株式会社
- 井上賞子 2022 『学びにくさのある子への読み書き支援』Gakken
- 井上賞子 杉本陽子 小林倫代 2022 『国語のじかん特別支援教育はじめての いっぱい!』凸版印刷株式会社
- 斎藤代一 2021 『特別支援教育をサポートする読み書きにつまずく子への国語教材集 (CD-ROM 付)』図書印刷株式会社
- 竹田契一監修 村井敏宏・中尾和人著 2021 『読み書きが苦手な子どもへの<基礎>トレーニングワーク』明治図書
- 竹田契一監修 村井敏宏著 2021 『読み書きが苦手な子どもへの<つまずき>支援ワーク』明治図書
- 宇野彰 千葉リョウコ 2020 『「うちの子は字が書けないかも」と思ったら』ポプラ社
- 品川裕香 2020 『怠けてなんかない! 3 読む・書く・記憶するのが苦手な子どもたち 英語を学ぶとき』岩崎書店
- 黒澤礼子 2019 『気づいて・育てる発達障害完全ガイド総合版』講談社
- 笹森洋樹 2017 『イラストでわかる特別支援教育サポート辞典「子どもの困った」に対応する99の実例』合同出版
- 村井敏宏 2017 『誤り分析で始める! 学びにくい子への「国語・算数」つまずきサポート』明治図書
- 海津亜希子 杉本陽子 2016 『多層指導モデルMIMアセスメントと連動した効果的な読みの指導』Gakken
- 小池敏英(監修) 2016 『健康ライブラリー版 LDの子の読み書き支援が分かる本』講談社
- 梅田真理 2016 『特別支援教育をサポートする 読み・書き・計算指導事例集 (CD-ROM 付)』ナツメ社
- 2015 『イラストでわかる特別支援教育サポート辞典「子どもの困った」に対応する99の実例』合同出版
- 小池敏英・雲井未歎 2013 『教室で行う特別支援教育8“遊び活用型”読み書き支援プログラム』図書文化
- 国立特別支援教育総合研究所 2013 『改訂新班 LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド』東洋館出版社
- 特別支援教育士資格認定協会 2013 『編 No. 3 2015 10月号 LD・ADHD&ASD 学び方の違う子へのサポート』
- 品川裕香 2011 『怠けてなんかない! 0 読む・書く・記憶するのが苦手になるのを少しでも防ぐために』岩崎書店

共同研究

品川裕香 2010 『怠けてなんかない！ 2 読む・書く・記憶するのが苦手な LD の人たちの学び方・働き方』岩崎書店

品川裕香 2003 『怠けてなんかない！ 読む・書く・記憶するのが困難な LD の子どもたち』岩崎書店

〈参考 WEB サイト〉

文部科学省 2022 「通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」
最終閲覧（2023 年 5 月）

文部科学省 2021 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（答申）最終閲覧（2023 年 10 月）

文部科学省 2009 「学習障害児に対する指導について」（報告）最終閲覧（2023 年 1 月）

発達性ディスレクシア研究会 2003 「発達性ディスレクシアの定義」最終閲覧（2023 年 1 月）

「そうか！」チャート 最終閲覧（2022 年 7 月）